

[放射線診断科]

[研修の目標]

放射線医学、特に放射線診断の基本的能力を身につけるとともに、医療における放射線診断の役割、立場を理解する。治療的 IVR の手技を習得する。

[研修指導医]

放射線診断科部長が責任者となるが、症例に応じて放射線診断科 staff が指導に携わる。

[研修コース]

各科ローテートの一環として、一般臨床医に求められる放射線診断科の基本的な診察知識・手技を修得する 1 ヶ月コースの研修を予定しているが、希望に応じて研修期間を変更できる。

[研修指導体制]

指導医の元、CT, MRI, 核医学検査の適応の判断や検査計画、読影と報告書作成を行う。又、主に胸部、腹部治療目的の IVR の適応判断や治療計画、検査と治療の施行、読影、報告書作成を行う。症例検討では、外科や消化器内科医師をまじえ、画像と手術所見や臨床所見との比較検討が可能である。又、毎日、科内の症例検討が随時行われる。

[研修到達目標]

- ① 医療放射線被曝とその防護に関する基礎知識の習得。
- ② ヨード造影剤並びに MRI 用造影剤の適応と禁忌に関する知識の習得。
- ③ 人体の断層映像に寄与する正常解剖(脈管解剖含む)及び病態生理の習得。
- ④ 頭頸部、胸部、腹部、四肢の基本的疾患 CT の適応と画像の理解。
- ⑤ MRI の最小限の基本原則を理解することにより MRI の特徴を把握し、各部位や疾患に対する MRI 検査の適応を判断できる。
- ⑥ 主な MRI の撮像 sequence を理解し、適切な撮像方法が選択できる。
- ⑦ MRI で比較的特異性の高い異常所見を指摘できる。
- ⑧ IVR の適応、術前チェック項目、術前管理の理解と、IVR の基本的手技の習得。
- ⑨ 術後の基本的管理、IVR の評価方法の習得。
- ⑩ 医療用放射性同位元素と検査種類、検査法、汚染防止の理解、及び RI 画像の基本的読影法の習得。